

# 中国帰国者の生涯学習に伴走する - ライフステージごとのニーズに応じて -



文化庁日本語教育大会生活者としての外国人のための日本語教育 テーマ別実践報告会  
「ライフステージに応じた日本語学習を支援するには～成人の学びの在り方を考える～」

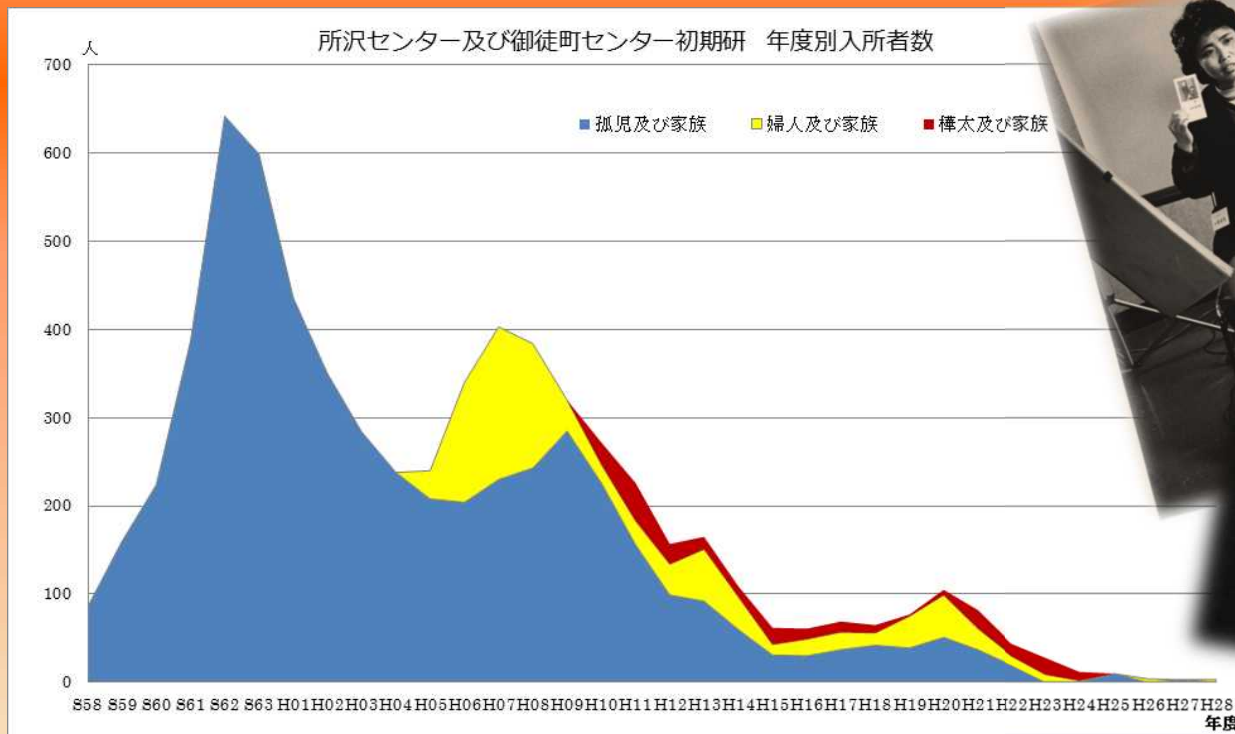
(公財)中国残留孤児援護基金 中国帰国者支援・交流センター 安場 淳



# 中国・サハリン帰国者の今



- ・ 1972年の日中国交回復以降の永住帰国、ピークは80年代後半  
※サハリン帰国者は90年代末～2000年代
- ・ 永住帰国の時代はほぼ収束し、帰国一世世代の課題は医療と介護に
- ・ 二三世の日本語習得の困難は続く
- ・ 三四世は継承語とキャリア教育が課題





# 生活者の学習を考える

## — 2つの軸 —

### 1. 滞日年数という時間軸

帰国直後～中期へ

- ・ サバイバル期から社会統合期まで
- ・ 時期ごとに異なる学習目標

### 2. ライフステージという時間軸

- ・ 職業生活／家庭／社会生活上のライフステージ推移

# 生活者の学習を考える

## — 2つの条件 —

### 1. 学習スタイル

- ・ 成人学習
- ・ 識字力、母国での学習歴・経歴      etc
- ・ 『生活日本語』の敗北

### 2. 時間の制約

- ・ 生活者は学習に割ける時間がないので達成目標は即効性のあるものに限る
- ・ 目の前のニーズに応えつつ、中長期的な視野も捨ててはいけない



# 帰国・来日後の 時間軸によるニーズ推移

## ① 初期の集中的な学習機会の意義

- ・ 不十分ながら数ヶ月の保障された期間
- ・ 社会からの隔離という「-」を上回る「+」
- ・ 学習機会を与えられなかった私費帰国者の長期的な損失

## ② 社会統合達成までの中長期的伴走の意義

- ・ 段階/時期により異なる支援の内容・方法



# ライフステージという時間軸

- ・ 職業(キャリア形成／階層上昇移動)
- ・ 家庭(出産→育児→子供の年齢ごとの家庭教育と教育戦略)
- ・ 社会生活(近隣・職場・子どもの学校での交際の広がり)



- ・ 老後(医療・介護・看取り)



# 動機付けが命

## ①全ての学習活動の出発点に動機付け

- ・ 社会体制の違いによる社会観の違い
- ・ 文化差(価値観・思考・行動様式)
- ・ 特に日本社会との接触の少ないサバイバル段階では不可欠
- ・ 日本語力によって異なるベースライン設定

## ② Plan (計画) → Do (実行) →

Check (評価) → Act (改善)



# 学習スタイル ①

## ～「成人学習」であること～

- ① 「自ら学ぶことを援助する」成人学習理論
- ② 「大人」としての尊重 と 情報弱者の立場理解
- ③ 学習ニーズの多様性・個別性 と 普遍性 の調整
- ④ 目の前のニーズに応える必要  
& ニーズが見えていない場合





## 学習スタイル ②

～平仮名一つとってみても…～

### A. 50音図に沿って導入が可能な場合

- ・ 仮名のみで導入 「あ」「い」「う」…「か」「き」「く」
- ・ 未就学～低学年児: その行の文字が頭文字の語から 「**か**さ」「**き**つね」「**く**つ」「**け**むし」…

### B. Aが困難な場合の方策

- ・ 意味のない学習は成人には苦痛(実は子供も)
- ・ 意味的に関連のある語彙群から 「**も**も」「**み**かん」「**す**いか」… 行別の整理は後で(不可でもOK)



## 学習スタイル ③

### ～文法の学習の方が楽な人と そうでない人と～

- ・「て形」…「～形」の規則

理屈がわからないと一歩も進めない人

VS

- ・「書く」と「書いて」は別モノ！

文法を「語彙扱い」して丸覚えしないと進めない人



## 「帰国者」特有のニーズとは...

- 「生涯学習の宿命」
  - …帰国孤児にとっての日本語学習の存在論的な意義
    - ※「日本人」志向から逃れられる配偶者
- 二～三世代定住の同時進行
- 受けた教育の違いによる歴史認識の違い



# 帰国直後の初期集中研修の形態

## 日本語・日本事情の学習

- ・ 目標：日本での生活への自信と意欲、それを下支えする基礎知識・技能
- ・ 「行動」「交流」「ことば」「知識」の4プログラムは半独立  
←関連づけて虻蜂取らずになった『生活日本語』の教訓

※高齡帰国者の時代：

「心身の健康維持」が目標 →学習もその一環



# 定住後の日本語学習、交流支援

## 1. いつでもどこでも学べる体制

### ・通学課程

…全国7箇所の支援・交流センター 週一回(首都圏センター：延べ約200名)

高齢者向け…日本の歌／読み聞かせ／仮名からのんびり学ぶ日本語／  
医療／介護を受ける／PC 等

キャリア支援…介護初任者研修／日能試N2対策／PC／  
運転免許 等

### ・地域生活支援事業 …地域の教室(自治体が実施主体)

### ・遠隔学習課程(通信教育) …首都圏センター主宰

郵便、ファックス、電話等による課題の添削と月一回のスクーリング

・中国帰国者向け25コース、サハリン帰国者向け14コース

・人気コース…「医療」「介護」「日本語文法」「日能試N2対策」

「仮名の復習から始める簡単日本語」

・全国に常時延べ1300名ほどの受講者



PC教室



スクーリング風景

## 2. 交流事業 各支援・交流センターで開催

- ・主として地域で孤立しがちな高齢一世の交流ニーズ
- ・高い 帰国者同士の交流ニーズ
- ・3つの分野

…首都圏センター：12コース 延べ約400名参加

### ① 心身の健康増進、介護予防

太極拳／フラダンス／気功／ヨガ／健康ダンス 等

### ② 日本や中国の文化に親しむ文化活動

書道／水墨画／中国将棋／写真／中国映画鑑賞 等

### ③ 異文化交流会

帰国者、地域住民、支援者（ボランティア団体等）  
が協働作業やコミュニケーションを通じて相互理解、  
相互学習を深める



書道講座



異文化交流会



# 日本社会に向けての働きかけの方が 重要かもしれない

1. 啓発活動  
一般社会／介護の現場



2. 「戦後世代の語り部」の育成  
中国残留邦人等の体験を継承



1世の体験を聞き取る



研修風景

3. 介護「語りかけ」ボランティア